

Watching Carefully

取材・文／トライアウト 撮影／鈴木誠一

arpéggio 25th Anniversary

@arpéggio

今この瞬間の喜びと 未来への希望を25周年に込めて

「ファミコン」が発売され、「東京ディズニーランド」が開園し、テレビドラマなら「金曜日の妻たちへ」、クイズ番組なら「世界まるごとHOW MUCH!!!」、安全地帯が「ワインランドの心」を、THE ALFEE が「メリーアン」をヒットさせた。1983年とは、そんな年だった。その年の12月13日に、『arpéggio』というバーは誕生した。それから五半世紀、創業者である恒岡さん亡き後を受け継いだ川崎さんは、25周年という今宵をこう振り返った。「自分が『arpéggio』というバーの歴史の一部になったことを光栄に思います」。1983.12.13 という時代に、まだ生まれていない人の来店やスタッフもいる。25年の重みとは、簡単に言うとそういうことだ。

1999年、本誌特集で撮影したスーツ姿の恒岡さんの写真が、今もカウンターを見るように店内に飾られている。「常に師匠の視線を感じていたい」。川崎さんのみならず、木屋町のバーオーナーたちにとって、この店は目標であり、マイルストーンであり、時に戒めであった。だからこそ、今宵来店した300人を超える人々すべてが今宵の祝いを異口同音で「恒岡さんと川崎さんに」と捧げる。だが、当事者である川崎さんはそとこう語った。「そして未来の『arpéggio』のオーナーに」。いつか自分もバトンを渡す時が来るだろう。その時に『arpéggio』が『arpéggio』であり続けるように…。



1.「開業堂」の高橋オーナーと高木さんも参加。「この店がなかったら今の僕らはないですね…。30周年の時もぜひお祝いさせてください！」 2. マキさんは『arpéggio』の常連。お連れの方のヨシキさんは初めての来店だとか、「川崎さんの苦労を知っているからこそ、今日はお祝いに」とマキさん。 3. 京都という街を、そして『arpéggio』をこよなく愛するバッキー井上さんも25周年のお祝いに。「一昨日も、昨日もここにきたけど、明日も明後日もまた来ます（笑）」 4. 木屋町でバーを営む面々も数多く来店。『VIVA』のICHIROさんと親友の勝村さんは恒岡さんの思い出話に華が咲く。今宵DJを務めたのは『VIVA』のスタッフ・タクローくん。「光栄っす！」 5. 恒岡さんのご友人でもあるオッチャンとその家族。仕事仲間が今宵は来店。「家族ぐるみ、仕事ぐるみで来て、ここは落ち着ける店なんや」



「入店時はアルバイトだったんですが、まさか今日をこんな形で迎えるとは思っていませんでした」とは『arpéggio』の二代目オーナーである川崎さん。自身、25年を振り返っての一言。「本当にまさか、まさかの25年でした」